

表紙の解説

小樽の群来

群来とは、鯨の産卵活動によって海が白濁する現象のことを言い、春になると小樽など北海道の日本海側で多く見ることができます。

鯨は別名、春告魚と呼ばれ小樽市民は群来で白濁した海や、市場に並ぶ前浜でとれた新鮮な鯨の輝きを見て春の訪れを感じています。

しかし昭和20年代からサハリン系鯨が分布域を北に移したことで乱獲が重なり、「幻の魚」と言われるほど漁獲量は減り続け、昭和29年を最後に群来は見られなくなりました。

その後、自治体や地元漁業者による産卵場所の形成や漁獲管理などの努力が実り、幻となっていた鯨の群来が平成20年、50年以上の歳月をかけて復活することになります。



写真:© 中山 仁史 /K2.